

すべての人に幸いを

伊勢原市立山王中学校

三年

駒澤 こまざわ

夏帆 なつほ

小学二年生の時、エレベーターの中で因

ている人がいました。私と一緒にいた祖母が

声をかけると、その方は「生まれつき目が見

えない。二階のボタンを押しすぎてくれませんか。

と言いました。祖母がボタンを押し、二階へ

つくと、その方は丁寧に「お礼をしてくれまし

たら、降りていきました。この出来事は、

私が障かいのある方と関わる初めての機会に

なりました。

この方なくとは身近に溢れていると今は

思っています。障かいのある方だけがなく、

お年寄りの方、怪我をしていの方、妊婦さん。

人は多様なので、悩み、状態もそれぞれぞ

れです。こうした中、日常に目を凝らすと、

多くの合理的配慮が私達の周りに施されてい

ると感じることができず。私は配慮には、

環境の配慮と個人の配慮の二つがあると考え

も	相	の	お	い	母	か	物	機	に	る	た	ユ	す	る	あ	っ	ゆ	や	ま
嬉	手	席	年	や	か	で	に	能	も	ま	ま	ニ	る	と	ま	り	る	す	す。
し	の	を	寄	り	と	ま	に	ト	気	ま	で	バ	た	コ	で	知	ユ	い	環
い	方	譲	り	の	、	ま	ま	イ	に	ま	で	一	め	ニ	い	ら	ニ	よ	境
気	も	る	の	心	た	し	で	レ	な	エ	夫	側	に	ナ	最	な	に	の	配
持	喜	よ	方	を	行	た	夫	な	て	夫	サ	面	に	ポ	近	か	エ	慮	は
ち	ん	う	、	持	動	た	か	ど	探	サ	レ	に	凹	一	ま	っ	夫	慮	は
に	で	バ	姓	っ	の	、	サ	公	す	レ	て	凸	と	コ	て	サ	サ	は	そ
な	く	心	婦	て	よ	、	レ	共	と	て	い	か	つ	ニ	の	レ	レ	の	の
り	れ	か	さ	行	う	、	い	の	、	る	る	ら	い	デ	で	サ	物	人	か
ま	る	け	ん	動	に	、	る	場	自	こ	と	普	て	イ	す	ヤ	ヤ	か	も
ず。	の	て	な	す	私	個	と	か	動	に	段	使	い	シ	か	デ	デ	も	と
個	で	い	ど	る	達	人	に	ら	ド	気	使	っ	て	ョ	ガ	ガ	イ	と	過
人	、	ま	バ	こ	一	の	気	普	ア	づ	て	て	、	ナ	イ	イ	ニ	と	過
の	心	す	、	と	人	配	ぐ	段	ヤ	く	い	こ	、	リ	ニ	の	と	と	過
配	す	す	バ	で	一	慮	く	使	点	こ	い	れ	、	反	の	と	私	い	過
慮	と	と	ス	す	人	は	こ	っ	字	と	ま	モ	、	別	と	は	わ	じ	し
は	と	、	ヤ	す	一	、	と	て	、	と	し				、	は	わ	し	
	て		電	と	人	祖	と	る	夕	他									
			車	、	か														
					思														
					心														

相手を手助けするだけだけでなく、コミュニティニケリ
 こをとることもかできません。他にも、家の近く
 で入浴サービスを見かけることもあり、この
 ふうな活動も福祉に関係していると感じまし
 た。環境の配慮と個人の配慮、この二つが大
 切であり、快適な生活に繋がると思いました。
 いまた、私は「ライボニ」
 う考説に興味を持ちました。ライボニ
 ニヨニは、障がい者、高齢者などがほかに
 と平等に生活できる社会という考えです。正
 直私はこの考えは全体に普及しきれないが
 だと思います。だから、この考えを多くの人
 々に知ってもらい、誰もが平等に生活できるよ
 うに全員が進んでいきたいと思えます。そし
 て、相手を理解すること大切だと思えます。
 昔、車椅子に乗る体験をしたことがありまし
 た。車椅子は、曲がりやすくなる動作かとも
 複雑だったり、早く動くこともか出来ませんで
 した。この時、初めて車椅子を使っている人
 の大変さを知りました。このように、相手の

大変さを知らなく、相手の気持ち以前より理解することかできると思いいます。

初め、障害のある方と関わり、てか、去年の

月日、がたち、思いやり、の心を育くむと同時に、

幸せについて考えるようになった。どう

したら、全ての人が生活しやすくなるか、

うしたら、偏った人の心を癒すことか、

るのか。あの出来事は私を大きく成長させる

き、かけになりました。私は、幸せの材

料は相手の配慮と理解だと思います。私の

材料は小さく、役に立たないかもしれない

けれど、一人でも幸せだと思ってくれ、人が

るのなら、たくさん届けたいなと思います。

なぜなら、人を幸せにすることも、一つの幸

せなのだと、気づくことか、できたから。